

歴史ある宮特研の事業紹介

宮城県特別支援教育研究会会長（宮城教育大学附属特別支援学校長） 村松 隆

宮特研は、昭和25年6月に、特別支援教育の振興と研究活動の促進を目的に発足しました。現在、本研究会は、県内小・中学校特別支援学級担任、通級指導教室担当者、特別支援学校教員等で組織されています。

本研究会の事業として、毎年度夏季休業中に行う夏季研修会と研究奨励賞の選考があります。また、本研究会には6つの教育専門部があり、それぞれが研修会を企画・実施したり、研究紀要等を発刊したりと独自に活動を展開しており、これが本研究会の特徴でもあります。

今年度の夏季研修会は61回目で、23の講座を開設しました。特別支援教育の現状、防災教育、保健指導、ICT活用、連携、授業のユニバーサルデザイン、学級経営、教科の指導、外部専門家（言語聴覚士、作業療法士、音楽療法士）の講義などです。小・中学校、

特別支援学校の先生方だけでなく、幼稚園・保育所、高等学校、支援機関からの参加、県外の先生方の参加もあり、合わせて305名が一日熱心に研修しました。初めて特別支援教育に携わる先生方にとっては欠かすことのできない研修会になっています。毎年受講される先生方も大勢いらっしゃいます。先生方の研修ニーズを踏まえ、研修会の内容をますます充実させたいと考えています。

今年度から、研究奨励賞を受賞された先生方に、この夏季研修会で発表いただいております。ご発表いただくことで受賞を称えとともに、優れた研究実践を広く紹介し、県内の特別支援教育の充実と発展につなげたいとの考えからです。

歴史を重ね、宮特研の役割はますます大きくなってきています。地道に着実にその歩みを続けていきたいと考えています。

各地の特別支援教育